

令和6年度 全国学力・学習状況調査
(令和6年4月18日 実施)

高石市立小・中学校

調査結果概要

令和6年10月
高石市教育委員会

調査の概要

- (1) 調査の目的
- ア 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
 - イ 各学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
 - ウ 以上のような取組みを通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。
- (2) 調査内容
- I…教科に関する調査 小学校：国語・算数 中学校：国語・数学
 - II…アンケート調査 児童生徒対象・学校対象
- (3) 調査対象
- 小学校第6学年（高石市：7校 児童数：512人）
 - 中学校第3学年（高石市：3校 生徒数：418人）
- (4) 調査実施日
- 令和6年4月18日（木）
- (5) 調査結果の取扱いについて
- 本調査は、競争を目的とするものではなく、すべての子どもたちの学力や学習状況を把握し分析することにより、教育及び教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図ることを目的としている。
 - 本調査により測定できる学力は特定の一部であり、学校における教育活動の一側面を示すものである。

平均正答率からわかる本市小・中学校別結果の概要について

小学校	平均正答率 (%)		
	高石市 (公立)	大阪府 (公立)	全国 (公立)
国語	67	66	67.7
算数	63	63	63.4

中学校	平均正答率 (%)		
	高石市 (公立)	大阪府 (公立)	全国 (公立)
国語	54	57	58.1
数学	47	51	52.5

上表の本市平均正答率の数値データは、市内の全小学校・全中学校のデータに基づいて表しています。
 ※平成29年度より、国からの結果公表が整数値のため、本市及び大阪府の平均正答率は整数で表しています。

- ◇ 小学校では、国語は、大阪府平均を上回り、全国平均と同等です。
算数は、大阪府平均、全国平均ともに同等になりました。
- ◇ 中学校では、国語・数学いずれも、大阪府平均、全国平均ともに下回っています。

学力調査結果 小学校

平均正答率 (%)

	高石市	大阪府	全国	対府差	対国差
国語	67	66	67.7	1.0	-0.7
算数	63	63	63.4	0.0	-0.4

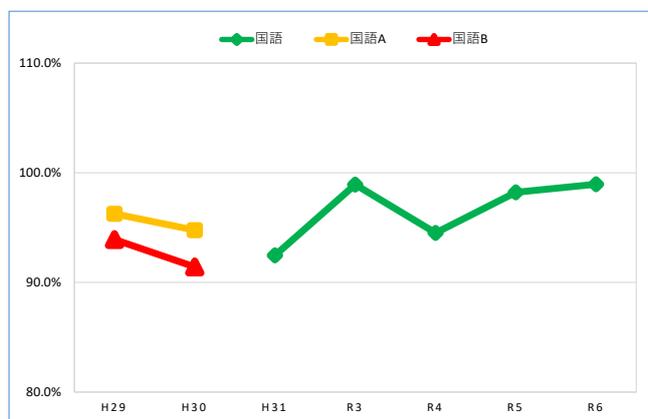
無解答率 (%)

	高石市	大阪府	全国	対府差	対国差
国語	3.5	4.3	4.2	-0.8	-0.7
算数	2.6	3.4	3.4	-0.8	-0.8

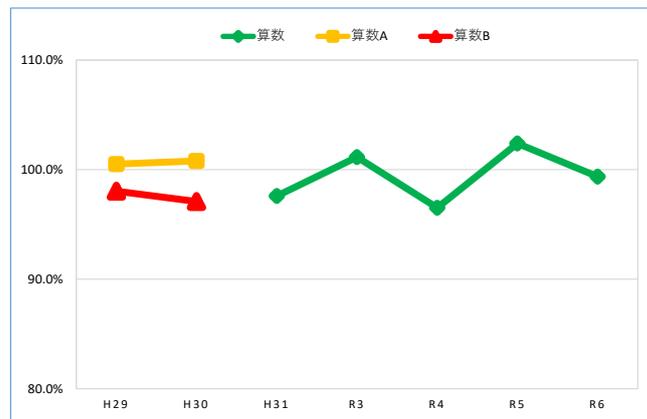
【参考】対全国比の経年比較

(平成 31 年度より A・B 区分がなくなりました)

【国語】



【算数】



※全国の平均正答率を 100 としたときの各教科の平均正答率の推移

各教科の状況

○小学校国語

平均正答率は 67% で、全国平均を 0.7 ポイント下回った。

「言葉の特徴や使い方」「情報の扱い方」に関する問題については、全国平均を上回っており、成果がみられる。

また、「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」の各領域については全国平均を下回った。特に目的や意図に応じて、事実と感想、意見とを区別して書くなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することに課題がみられる。

(課題となる問題例を P. 12 に掲載しております)

小学校国語	領域	市	府	国	府比	国比
	言葉の特徴や使い方	66.3	63.4	64.4	104.6	103.0
	情報の扱い方	87.8	85.5	86.9	102.7	101.0
	話すこと・聞くこと	58.5	57.3	59.8	102.1	97.8
	書くこと	66.1	65.9	68.4	100.3	96.6
	読むこと	68.7	69.0	70.7	99.6	97.2

○小学校算数

平均正答率は 63% で、全国平均を 0.4 ポイント下回った。

「数と計算」「図形」「データの活用」については全国平均と同等であり、これまでの取組みの成果がみられる。

しかし、「変化と関係」については全国平均を下回っており、特に道のりが等しい場合の速さについて、時間を基に判断し、その理由を言葉や数を用いて記述することができていない児童が多い。

(課題となる問題例を P. 13 に掲載しております)

小学校算数	領域	市	府	国	府比	国比
	数と計算	65.6	65.3	66.0	100.5	99.4
	図形	64.5	65.2	66.3	98.9	97.3
	変化と関係	49.6	50.9	51.7	97.4	95.9
	データの活用	61.7	60.9	61.8	101.3	99.8

学力調査結果 中学校

(※前回の英語の調査は平成 31 年度)

平均正答率 (%)

	高石市	大阪府	全国	対府差	対国差
国語	54	57	58.1	-3.0	-4.1
数学	47	51	52.5	-4.0	-5.5

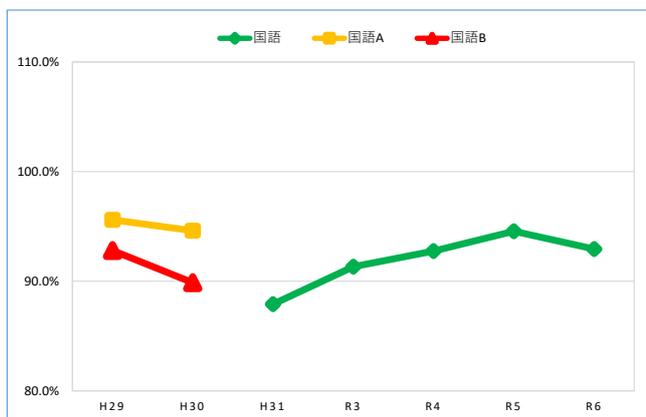
無解答率 (%)

	高石市	大阪府	全国	対府差	対国差
国語	5.6	5.2	4.6	0.4	1.0
数学	10.2	11	9.6	-0.8	0.6

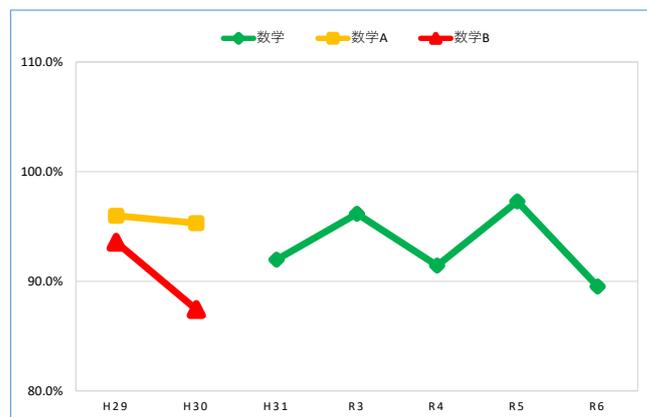
【参考】対全国比の経年比較

(平成 31 年度より A・B 区分がなくなりました)

【国語】



【数学】



※全国の平均正答率を 100 としたときの各教科の平均正答率の推移

各教科の状況

○中学校国語

平均正答率は 54% で、全国平均を 4.1 ポイント下回った。情報の扱いは全国平均と同等であったが、他の領域については、全国平均を下回った。特に「話すこと・聞くこと」に課題が見られる。資料を用いて、自分の考えがわかりやすく伝わるように自分の考えをまとめることができていない生徒が多い。(課題となる問題例を P. 14 に掲載しております)

中学校国語	領域	市	府	国	府比	国比
	言葉の特徴や使い方	56.1	59.1	59.2	94.9	94.8
	情報の扱い方	59.1	59.4	59.6	99.5	99.2
	話すこと・聞くこと	50.4	56.4	58.8	89.4	85.7
	書くこと	59.9	63.3	65.3	94.6	91.7
	読むこと	43.9	47.2	47.9	93.0	91.6

○中学校数学

平均正答率は 47% で、全国平均を 5.5 ポイント下回った。その中で、特にデータの活用の領域に課題が見られる。確率を用いて不確定な事象を捉え考察する場面において、簡単な確率を求めることができていない生徒が多い。

(課題となる問題例を P. 15 に掲載しております)

中学校数学	領域	市	府	国	府比	国比
	数と式	44.9	50.4	51.1	89.1	87.9
	図形	36.1	40.5	40.3	89.1	89.6
	関数	55.7	58.9	60.7	94.6	91.8
	データの活用	48.5	53.3	55.5	91.0	87.4

質問紙調査の結果概要

単位は、%

	質問項目	高石市				全国				
		R3	R4	R5	R6	R3	R4	R5	R6	
①	朝食を毎日食べている	小	91.9	91.3	91.1	90.1	94.9	94.4	93.9	93.7
		中	90.5	89.7	88.0	92.8	92.8	91.9	91.2	91.2
②	自分にはよいところがある	小	76.5	72.6	82.9	85.6	76.9	79.3	83.5	84.1
		中	69.3	70.3	74.2	74.0	76.2	78.5	80.0	83.3
③	将来の夢や目標をもっている	小	80.0	81.4	79.2	83.4	80.3	79.8	81.5	82.4
		中	67.2	67.4	65.0	63.2	68.6	67.3	66.3	66.3
④	人の役に立つ人間になりたいと思う	小	93.1	92.6	92.7	95.1	95.5	95.1	95.9	95.9
		中	93.9	96.2	92.0	93.9	95.0	95.0	94.6	95.2
⑤	いじめはどんな理由があってもいけないことだ思う	小	96.2	96.1	97.8	96.0	96.8	96.8	96.9	96.7
		中	93.8	96.2	92.8	95.6	95.9	96.4	95.5	95.7
⑥	学校に行くのは楽しいと思いますか	小	85.0	84.8	87.3	86.0	83.4	85.4	85.3	84.8
		中	74.3	83.8	78.8	82.2	81.1	82.9	81.8	83.8
⑦	家庭学習の時間が30分以下（月～金）	小	20.0	20.4	23.9	26.1	13.0	14.7	16.0	18.3
		中	15.7	19.9	22.1	28.1	9.9	13.4	15.9	17.0
⑧	学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができていますか	小	77.6	73.6	81.5	83.1	78.3	78.2	77.4	80.8
		中	71.7	71.5	70.3	78.1	74.6	74.7	69.2	77.9
⑨	話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができている	小	75.4	75.7	80.0	83.5	78.8	80.1	81.8	86.3
		中	70.1	74.8	75.5	81.4	77.8	78.7	79.7	86.1
⑩	先生から示される課題や、学級やグループの中で、自分たちで立てた課題に対して、自ら考え、自分から取り組んでいたと思いますか	小	75.2	73.8	79.3	85.2	78.2	77.3	78.8	81.9
		中	79.6	77.5	78.6	80.7	81.0	79.2	79.2	80.3
⑪	自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表していたと思いますか	小	65.7	63.1	66.1	71.6	63.5	65.4	63.7	67.6
		中	52.2	65.1	66.6	71.9	62.0	63.3	62.1	64.8
⑫	学級生活をよりよくするために学級会で話し合い、互いの意見のよさを生かして解決方法を決めていますか	小	74.5	65.5	76.3	83.8	73.4	73.5	77.2	84.2
		中	50.1	61.3	65.6	80.1	73.9	76.8	77.9	86.3
⑬	国語の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか	小	93.2	92.8	95.2	94.5	91.8	91.8	92.8	93.2
		中	88.8	90.8	89.4	88.4	88.7	89.7	88.7	90.6
⑭	算数・数学の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか	小	91.4	92.6	93.7	92.4	92.6	93.3	93.3	94.1
		中	72.9	74.3	73.8	77.5	74.6	76.5	75.8	78.5

傾向について

①の項目では、小学校は全国を下回りました。また、中学校では数値が上昇し、全国を上回りました。今後も継続して朝食の大切さを伝えるため、食育等の取組みを進めてまいります。

②・③・⑥の項目では、小学校は全国を上回っています。しかし、中学校はどちらも全国を下回っています。今後ともさまざまな教育活動を通して自己肯定感を高めるとともに、キャリア教育を進めてまいります。

④の項目では、全国は下回っていますが、小中学校ともに前回に比べ数値が伸びています。人との関わりを大切に、自己有用感の向上を図る取組みを進めてまいります。

⑤の項目では、中学校では前回に比べ数値が大きく伸び、取組みの成果がみられます。引き続きいじめは絶対にゆるされないという教育を進めてまいります。

⑨～⑫の項目では、小中学校とも前年度より数値が向上しています。また、⑩・⑪の項目については、小中学校とも全国を上回るなど改善が見られます。今後とも引き続き各学校において、主体的・対話的で深い学びの実現につながる授業づくりを進めていきます。

⑬の項目では、昨年度に引き続き、小学校は全国の数値を上回りました。⑭の項目では、中学校では前年度に比べ数値が伸びていますが、小中学校ともに全国を下回りました。授業の内容が、より児童生徒の「生きる力」につながるものとなる実生活に結びつくものとなるよう研究に取り組んでいきます。

調査結果から

本年度の全国学力・学習状況調査の結果を分析・考察した結果、国語科において「具体と抽象など、情報と情報との関係付けの仕方、図などによる語句と語句との関係の表し方を理解し、使うことができるか」を問う問題については、成果が見られました。しかし、「目的や意図に応じて、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することや話し合いの話題や展開を捉えながら、他者の発言と結び付けて自分の考えをまとめること」を問う問題には課題が見られました。

算数・数学科において「立体図形について、図形を構成する要素やそれらの位置関係に着目し、直方体の見取り図について理解していることや、図形の移動の特徴を的確に捉え、回転移動について理解していること」を問う問題では、成果が見られました。しかし、「折れ線グラフから必要な数値を読み取り、条件に当てはまることを表現したり、事象を数学的に解釈し、その根拠を数学的な表現を用いて説明したりすること」を問う問題には課題が見られました。

日々の学習指導の中で、今回の本市の課題として挙げられる学習活動の中から

「基礎的な知識・技能の定着と活用」

「情報を主体的に捉えながら、何が重要かを主体的に考え、見いだした情報を活用する力」

「情報を整理活用し、自らの知識や経験と結び付け考えを深め、根拠をもとに適切に表現する力」

の3つを特に重点をおく学習活動として、1人1台タブレット端末の効果的な活用や大阪府情報活用能力ステップシートを使って計画的に指導する取組みを進めていきます。今後も引き続き、児童生徒の基礎学力の定着を図り、学力向上をめざした取組みを進めていきます。

質問紙調査において、「いじめはどんな理由があってもいけないことだと思う」について、小学校では、昨年度の数値を下回りましたが、中学校では数値に伸びが見られました。今までの道徳教育等、様々な教育活動を通して「いじめは絶対に許されない」という意識が向上するよう取組みを進めてきた成果です。引き続き取り組んでいきます。

「先生から示される課題や、学級やグループの中で、自分たちが立てた課題に対して、自ら考え、自分から取り組んでいたと思いますか」については小・中学校ともに全国を上回りました。各学校の主体的に学ぶ姿勢を育てる授業づくりの成果です。これからもこの取組みを続けていきます。

「朝食を毎日食べている」について中学校では全国を上回る値になりましたが、小学校では値が年々低くなっています。本市では、朝食の大切さを「三つの朝運動」として取り組んでいます。リーフレットを載せていますので、ご参照ください。

また、「自分にはよいところがある」については中学校では全国を大きく下回り、小学校では全国を上回る数値になりました。今後もキャリア教育等、子どもたちの思いを大切に活動を進めていきます。

「『毎日の家庭学習の時間』が30分未満である」という項目において小・中学校とも、全国平均より多く、また、増加傾向にあります。今回の結果を受けて、引き続き「家庭学習」の課題を重点として、ご家庭の協力をお願いします。

また、P.10・P.11に、「高石市三つの朝運動（あいさつ・朝食・朝読書）」リーフレット等、参考にしていただけた資料及びデジタルドリルを掲載していますので、併せてご参照ください。

学びの場でのタブレット端末等のICT機器の活用が進む中、スマートフォンの所持率も学年と共に上がっていきます。小学校より9年間を見通し、情報機器を活用しながら情報社会で適切な活動を行うためのもとなる考え方や態度を養っていくため、情報モラル教育に関わる取組みを充実してまいります。P.11に掲載のリーフレット等を参考に、スマートフォンの使用時間等のルール作りについて、子どもたちの適切な睡眠時間を確保できるようご家庭でも話し合ってください。

【P.6より高石市教育委員会・各学校の取組みと、家庭・地域の皆様にご協力いただきたい点をまとめて記載しております。】

教育委員会による学校への指導助言事項

各校に対して、下記の内容について重点的に指導助言を行います。

① 調査結果を分析し、教職員が児童生徒の課題を理解し、課題解決の実践

学校全体で結果分析を行い、児童生徒の課題解決のために『授業改善（基礎基本・読解力の定着）』『校内研究体制の確立』『学級づくり・学習規律の確立』『家庭学習の充実』の4つの観点から取組み内容を具体化し教職員一人ひとりが推進に取り組むこと。また、各校の「学力向上の取組み」について、年間を通して授業改善PDCAサイクルを使って、習得した知識・技能を活用する力や言語を用いてまとめたり表現したりする力を育成する学習活動と継続した授業改善に努めること。また、各教科等で学習活動に学校図書を活用を位置づけ、複数の資料から必要な情報を整理するなど、児童生徒の情報活用能力の育成を図るとともに、学校司書との連携を深め読書活動の推進を図ること。

② 校内研究体制の充実、指導力のさらなる向上

中学校区でめざす子ども像を共有し、その実現に向けて取り組む。大学教授等の外部講師を招聘し、最新の教育課題や取組みをもとに教職員の資質・向上に努めること。あわせて、指導案作成の際にも指導助言のもと、学校の研究主題、研究仮説が適切に盛り込まれているか、子どもの課題とめざす子ども像を踏まえたものとなっているか等をふまえ、共同で協議・作成する校内体制を構築すること。また、タブレット端末を効果的に活用した授業改善に努めることや他市町村の先進的な実践校等を視察、キャリアステージに応じた研修の参加など教員が探究心を持ちつつ自律的に学ぶこと。

③ 個別最適な学び（基礎基本・読解力の定着）の充実に図る

読解力の向上を図るため、新聞教材を活用したワークシートの取組みを進め、子どもに複数の資料から必要な情報を読み取り、自分の考えとともに表現する力の育成を図ること。また、基礎学力の定着を図るため、タブレット端末を活用したデジタルドリル等の活用を進めること。

放課後に補充的学習機会として実施している「高石っ子学び舎」及び「高石っ子学び舎キッズ」について、授業内容や一人ひとりの学習状況を見極めたくうえで、保護者の理解と指導者との連携のもと、子どもたちへの個別の学習支援対策として実施すること。

④ 心の教育の推進

人権尊重の教育を推進するにあたり、教職員が人権尊重の理念を十分に理解し実施できるよう、組織的な研修体制を整備し、人権教育推進のための実践力を身につけること。また、いじめの積極的な認知を行い、スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカー等の専門家との連携を図り、組織的な対応を行うとともに適切な支援を行うこと。

不登校への取組みについて、社会性測定用尺度の結果分析や専門家との連携により、不登校につながる要因を早期に把握し、支援体制の充実に図り、継続的な支援を推進すること。

⑤ PTA,学校評議員会等に調査を公表することから、家庭・地域の協力を促す

自校の学力実態や、生活実態をPTA実行委員会や学校評議員会において具体的に知らせ、改善策について意見を聞きながら、今後の方針を明確にするとともに、家庭や地域と共に、次代の地域を担う子どもたちを育てていく素地を形成すること。実態についてオープンにすることで積極的に支援してもらう姿勢を示すこと。

学校での取組み

☆ 今年度の調査から見える課題を踏まえ、各校が重点的に取り組むことを下記に記載しています。

高石小学校

全国学力・学習状況調査から、国語科・算数科ともに「思考・判断・表現」の項目に関して、改善が見られた。今後も引き続き、児童間での交流を通して、他者の意見を聞いて考えを深め、自分の考えを表現する力を育てる授業改善の取組みを継続する。あわせて、さらに読解力・情報活用能力を育成するための高小タイム、基礎・基本の定着を確実なものにするための高小検定（漢字のプリント学習）の取組みについても推進を図る。

羽衣小学校

全国学力・学習状況調査から、問題の文章や複数の資料から必要な情報を読み取り、求められている課題や目的を理解し、条件に合った文章を書くことに課題が見られた。そのため、授業の中で、文章の内容を資料やグラフと照らし合わせながら読み取り、「求められている課題や目的、条件は何か」を意識して書く時間を設け、課題解決に向けた取組みの推進を図る。

高陽小学校

全国学力・学習状況調査から、記述式の問題における正答率の向上が見られ、国語科において、研究主題として自分の考えや思いを書いて表現する力の育成を行ったことの結果が出た。しかし、身に付けたことばの力が他教科、領域に活かされていないという点に課題が見られた。そのため、これまでの研究の成果を生かし、他教科においても、子どもの必然性を大切にした言語活動を行う単元構想や各学年の系統性を意識した授業改善の推進を図る。

取石小学校

全国学力・学習状況調査から、読むことや書くこと等、全般的に課題が残る結果となった。特に、問題文を読み、問われている内容を的確に読み取る力に課題が見られた。そのため、設問の意図に正対した解答ができるよう、「しっかりと思考する」ことが必要であると考え、シンキングツールを活用し、思考することを中心とした授業づくりを行う。また、児童の考えを表現する機会としてICTの活用を進め、課題解決に向けた取組みの推進を図る。

東羽衣小学校

全国学力・学習状況調査から、文章や図、表等から必要な情報を取り出し、整理したり、内容の意図を理解し自分の考えを表したりするという点に課題が見られた。そのために、学校図書館を活用し、複数の資料の内容から必要な情報を取り出し、整理させる機会を充実させることで情報活用能力の育成を図る。さらに整理した内容をもとに自分の考えを表現できる力を育む授業づくりをし、課題解決に向けた取組みの推進を図る。

清高小学校

全国学力・学習状況調査から、読んだこと（聞いたこと）を正確に把握することや、書くこと（話すこと）を通して自分の意見や考えを伝えるという点に課題が見られた。そのため、朝の学習で、話す・聞く力を育成するための「対話タイム」や、国語の時間を中心に、子どもたちが主体的に学ぶ、つけたい力を明確にした単元構想をする授業改善を行い、課題解決に向けた取組みの推進を図る。

加茂小学校

全国学力・学習状況調査から、問題の意図を正しく読み取り、根拠を基にして思考・判断し、自分の考えや意見が相手にうまく伝わるように表現するという点に課題が見られた。そのため、既習事項や新しく学んだ「知識・技能」を活用して、自ら「思考力・判断力」を働かせて課題を解決する時間を設定し、本校研究テーマの「読みとったことを文章を基に伝える力を育成する」ことをめざす授業改善を進める。学習アンケートによってそのような時間が確保されているか効果検証を行い、課題解決に向けた取組みの推進を図る。

高石中学校

全国学力・学習状況調査から、国語、数学ともに「知識・技能」「思考・判断・表現」の観点で改善が見られた。そのためICTを活用し、デジタルドリルを活用した反復学習、ツールを用いて、他者の考えと結び付けて自分の考えをまとめたり、相手にわかりやすく説明したりする協働学習の取組みを継続する。また、複数の資料を比較して読み取り、根拠をもとに説明する機会を設定し、授業の中で情報活用能力の育成を意識し、学校目標に掲げている「考動力」「対話力」「発信力」の向上をめざす取組みの推進を図る。

高南中学校

全国学力・学習状況調査から、基礎的・基本的な知識・技能の定着に課題のある生徒が多く、特に目的に応じて表現を工夫し自分の考えを伝えたり、説明したりする文章を書くという点に課題が見られた。そのため、授業内でデジタルドリルを活用し、復習・小テストなどで振り返りを行い、基礎学力の定着に重点的に取り組む。また、先進校への視察や外部講師の助言を得ながら、自分の考えを表現する力を育てる授業改善の取組みの推進を図る。

取石中学校

全国学力・学習状況調査から、文章や資料を読みとり分析し、考えをまとめたり、説明したりする力、自主的に家庭学習に取り組む習慣を身につけるといふ点に課題が見られた。そのため、授業のめあてを明確にし、めあてにそった発問、効果的な話し合い活動を設定し次の授業づくりに繋げることで、生徒が学びの連続性を感じられる授業改善を図る。また、デジタルドリルを活用し、生徒が主体的に家庭学習に取り組む機会を増やし、個別最適な学びの充実を図る。

家庭・地域にご協力いただきたいこと

- ◆ 朝食を摂ることは、効果的に学習に取り組むためにとても重要です。毎日朝食を摂って、朝からしっかり学習活動に取り組めるよう、また、健康な生活が送れるよう引き続きご協力をお願いします。
- ◆ 各学校における「家庭学習のてびき」等を参考にいただき、子どもたちの宿題の確認や学校の予習・復習、デジタルドリルの活用等、自主的な家庭学習に対する意欲向上へのご協力をお願いします。
- ◆ 「他人を認め、自分を大切にすること（自己肯定感）の大切さをご家庭でもお話していただきますようお願いいたします。
- ◆ ご家庭における読書の機会設定や子どもたちへの啓発についてご協力をお願いします。
- ◆ スマートフォン・タブレットやゲーム機等の使用について、家庭におけるルール作りと、インターネットの危険性について、子どもと話し合ってください、適切な使用とともに十分な睡眠時間が確保できますようお願いいたします。
- ◆ 学校のさまざまな学力向上等の取組み（授業支援や図書、放課後学習活動等のボランティア等）についてご協力をお願いします。
- ◆ 学校の「ホームページ」や「グーグルクラスルーム」等をご覧ください、行事や取組みへのご理解とご協力をお願いします。
- ◆ 各中学校区の「すこやかネット」の活動へのご参加とご協力をお願いします。

参考資料及びワークシート

◆高石市三つの朝運動（あいさつ・朝食・読書） （高石市教育委員会から配布）

朝の、あいさつ・食事・読書の大切さについてまとめたリーフレットです。特に、朝食をとることで体・心・脳によい影響があります。朝ごはんを食べて、朝からしっかり活動できるようにしましょう！

高石市三つの朝運動 （あいさつ・朝食・朝読書）

高石市では平成21年度から、大阪府が取組んでいる三つの朝運動を受け、「高石市三つの朝運動」を推進しています。あらためて、三つの朝の活動の重要性について、子どもたちの課題とともにお伝えします。

「朝食」について

つい朝食を抜いてしまいませんか？朝食には、いろいろなことが隠れています！

体 集中力がつき、けかも附ける 脳を活性化させ、学習に集中！

心 心が安定し、よい食習慣がつく

脳のパワーが全開になるのは、食事をした1～2時間後から！

☆朝食を抜いて一日の最初の食事が朝食となった場合、学校が終わるころに、ようやく腹のはたらきが活発になります。

朝食を食べないと、せっかくの学習や活動がムダになります！朝ごはんを食べて、朝からしっかり活動できるようにしましょう！

◆高石っ子の学びを育む家庭での過ごし方について （高石市教育委員会から配布）

小学校1年生から中学校3年生までの家庭学習を行う際にヒントとなるポイント等についてまとめたリーフレットです。

高石っ子の学びを育む 家庭での過ごし方について

保護者のみなさまへ

高石市教育委員会では、『たけなわ教育ビジョン（高石市教育振興基本計画）』を策定し、『知・意欲をもって主体的に学ぶ力』、『徳（豊かで、思いやりのある心）』、『体（たくましく、健康な心身）』のバランスのとれた人間性を兼ね備え、自らもつ子の育成をめざしています。この「家庭での過ごし方について」をぜひご家庭で実践いただき、子どもたちの日々の家庭学習や家庭生活について、子どもといっしょに、今一度振り返ってくださいますようお願いいたします。また、ご家族が子どもの「がんばり」を認めて、褒めることも大切です。

☆知の元氣

「すすんで学習しましょう」
～みんなで協力して家庭を学びの場所にしましょう～

・学習する場所の整理整頓をしましょう。
整理することは、気持ち良い生活を送ることができるとともに、心の中も整理され、集中力も高まります。

・家で本を読みましょう。
家で読書をしたり、読み聞かせをしたりしましょう。読書は、知識や教養を高めるだけでなく、表現力も豊かにします。

・家庭学習を習慣化しましょう。
発着を決めて、計画的に学習し、定数は必ず最後までやりとげましょう。

・1人1台タブレット端末を有効に活用しましょう。
学校から持ち帰ったタブレットについては「タブレット活用のルール」を守り、有効に活用しましょう。

◆情報活用能力ステップシート （大阪府教育庁小中学校課発行）

高石市では、このシートに合わせて児童生徒の情報活用能力を育てる取組みを行っています。



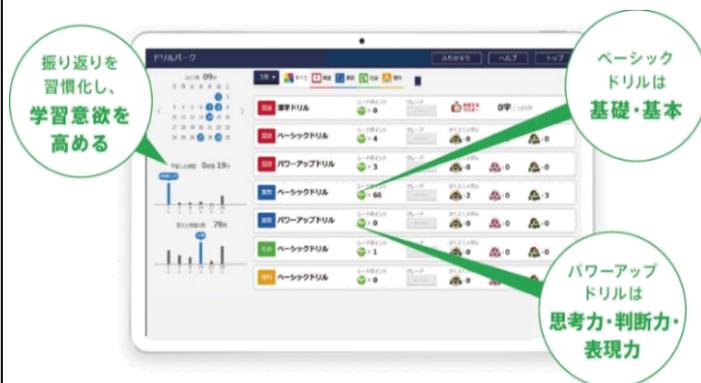
大阪府
情報活用能力ステップシート

本リーフレット「大阪府情報活用能力ステップシート」は大阪府ホームページからも見ることができます。

<https://www.pref.osaka.lg.jp/shochugakko/jyohokatsuyou/nouryok/index.html>

◆デジタルドリル

1人1台に配備されたタブレット端末には、個別学習に最適なツール「ドリルパーク」等が入っています。積極的に活用してください。



振り返りを習慣化し、学習意欲を高める

パワーアップドリルは思考力・判断力・表現力

ベーシックドリルは基礎・基本

◆家庭でのタブレット端末の使い方について

ご家庭で学校から配布されているタブレット端末を活用する際は、学校から配布されている「タブレット活用のルール」を読んでいただき、安心・安全・快適に活用してください。

令和6年度版 高石市立小・中学校
『タブレットchromebook(クロームブック)活用のルール』

児童生徒のみならず、学習内容をよく理解し、より豊かな学習していくために、タブレットを上手に活用していくことが大切です。タブレットはみなさんの学習に役立つための道具です。便利な道具ですが、使い方を間違えれば、破損したりトラブルの原因になったりします。そのため、高石市教育委員会は「タブレット活用のルール」を定めました。全員でこのルールを守り、タブレットを「安心・安全・快適」に活用していきましょう。
※おうちのひとといっしょにルールのかくにんをしましょう

1. タブレットを使う目的

- 学校で貸し出すタブレットは、学習活動のために使うことが目的です。ゲームなど、学習活動に関わること以外に使ってはいけません。

2. 使用するときの注意

① 共通の注意

- 学校と家庭、先生の指示がある場所以外では使用しません。
- 登下校中は、タブレットをかばんから出しません。
- 持ったまま走ったり、地面に置いたりしません。
- かばんの下に置いたり、かばんの底に入れたりしません。
- タブレットが入ったかばんを投げたりしません。
- 水をかけたり、濡気が多いところで使ったりはしません。また、日光が直接当たるところやストーブ等暖房器具の近くなどには置けません。
- タブレットの画面は指やタッチペンに触れるようにします。鉛筆やペンを触れたり、落書きをしたり、磁石を近づけるなどは絶対にしません。
- なくしたり、ぬすまれたり、落としてこわしたりしないように十分に気をつけます。
- タブレットを使用するときは、正しい姿勢で、画面に近づきすぎないように気をつけます。
- 30分程度は遠く景色を見るなど、ときどき目を休ませます。

② 学校で使うときの注意

- 学校でタブレットを使うときは、先生の指示をよく聞きます。
- 休み時間や放課後は、先生が認めた時だけ使います。また、先生が認めたこと以外に使いません。

③ 家庭で使うときの注意

- 使用する時間は家の人とよく話し合い、長時間使用せずよく休けいしながら使います。
- 就寝する30分前は使いません。
- 自宅に持ち帰った後に学校へ持ってくるときは、自宅で十分に充電しておきます。
- 自宅のパソコンとタブレットは、絶対に接続しません。

3. 安全な使い方

- 学習に関係のないウェブサイトにアクセスしません。インターネット接続記録が残りますので、注意してください。この記録は、学校や教育委員会から確認することができます。
- インターネットには制限がかけられていますが、もしもあやしいサイトに入ってしまったときはすぐに画面を閉じ、先生や家の人に知らせます。

4. カメラでの撮影

- 先生が許可した時以外はカメラを使いません。
- 先生の許可があっても、カメラで誰かを撮影したり、人の家や持ち物などを撮影したりするときは勝手に撮らず、必ず撮影する相手の許可をもらいます。

5. データの保存

- 学校のタブレットで作ったデータやインターネットから取り込んだデータ(写真や動画などは)、学習活動で先生が許可したもとのデータは保存します。保存した内容は、学校や教育委員会から確認することができます。

6. 設定の変更

- 先生や修理する人が使いにくくなるので、タブレットのデスクトップのアイコンの並び方や位置など、タブレットの設定は、勝手に変えません。
- タブレットには、今入っているもの以外のアプリケーションを入れません。また、今入っているアプリケーションを勝手に削除しません。

7. 保管

- 学校での保管は、先生の指示に従います。
- 家庭で保管するときは、家の人の目の届くところに置いておきます。

8. 個人情報等

- 自分のタブレットを他人に貸したり、使わせたりしません。
- 他人のIDやパスワード(QRコード)を勝手に使ってはいけません。
- 自分や他人の個人情報(名前や住所、電話番号など)はインターネット上に絶対に上げません。
- 相手を傷つけたり、いやな思いをさせたりすることを絶対に書き込みません。

保護者の方へのお願い事項

※この「高石市立小・中学校『タブレット活用のルール』」をお子さまといっしょにご覧いただき、安心・安全・快適に使用できるように、ご協力をお願いいたします。

- 学校から配布されるタブレットは貸与ですので大切に扱っていただけるようお願いいたします。
- 転送時、卒業時はタブレットを学校に返却してください。
- 春休みにはタブレットのメンテナンスのために、家庭には持ち帰らず学校の保管庫に収納し、連続した学年で再度配付します。
- 故障・破損・紛失してしまったら、すみやかに学校へ連絡してください。故意に故障・破損・紛失した場合、弁償していただくことがあります。
- 故意に、設定変更するなどしてタブレットに不具合が生じた場合は、もとに戻すための作業にかかる費用を家庭で負担していただくことがあります。

◆ケータイ・スマホの使い方について

(高石市教育委員会から配布)

○ケータイ・スマホ使用の家庭でのルールづくり・学校への持ち込み禁止等、使い方についてまとめたリーフレットです。

保護者の皆様

高石市教育委員会

「高石市立小中学校内での「スマホ等」の取り扱いについて」
★学校への児童・生徒の「スマホ等」の持ち込みは原則禁止です。

家庭と同様に、ルールを決めずに学校に「スマホ等」を持ち込むことは、様々なトラブルにつながります。学校への「スマホ等」の持ち込みについては、**学校、保護者、児童生徒が一体となって、相互が理解しあえる一定のルールづくりが必要と考えます。**そのため、今後、関係する方々のご意見や国の情勢等をふまえ、検討を重ねて慎重に対応する必要がありますので、高石市教育委員会では、引き続き「スマホ等」の学校への持ち込みを原則禁止といたします。

保護者の皆様のご理解とご協力が必要です。

ご家庭におかれましても、子どもが「スマホ等」を使用する際には、家庭内で必ずルールを作るなど、持たせる責任者としての責務を果たしましょう。

「やめよう！」と子どもたちに伝えてください。

- スマホ等でのネット上の誹謗中傷は、犯罪につながります。
 - 人の悪口をSNS等に書き込む行為
 - 「なりすましメール(人の名前をかたったメール)」を送る行為
 - 他人の個人情報や画像をネット上で公開する行為
 ☆ネット上の書き込みは、「だれが書いたのか」の記録が残ります！
- サイトには危険がいっぱいです。
 - 出会い系・架空請求サイトなどへのアクセス
 - 知らない人からのメッセージへの返信
 - 個人情報の安易な書き込み
- 携帯ゲーム機にも危険が！
 - 知らない人と通信できる。(無線でのデータのやり取りなど)
 - 匿名(ニックネーム)で通信するので、相手がわからない。
 ☆つまり・・・スマホ等と同じ危険がある！



学校への「スマホ等」の持ち込みは原則禁止です

「スマホ等」の使用状況について

タブレット端末や携帯電話・スマートフォン等の情報機器(以下「スマホ等」と表記)は、上向きに使うと私たちの日常生活や仕事に役立つ、便利な道具です。

しかし、「スマホ等」を子どもたちが持つことで、子どもたちの世界が大きく変わり、様々なトラブルに巻き込まれるケースが発生しています。

また、長時間の使用により学習時間及び睡眠時間が減少し学力の低下につながることも心配されています。

実際、アンケート結果から、スマホ所持率は、学年が上がるにつれ増加し、小学6年生から中学1年生で大幅に増加します。また、所持率の増加に伴い、3時間以上インターネットを接続する割合も増加します。

スマホ等やゲームなどのインターネットを接続する機器を使う際は、「スクリーンタイム」等を使って時間制限を設けることや、有害サイトは閲覧できないよう「フィルタリング設定」を行う等のルール作りをして適切な使用することが大切です。しかし、保護者とのルールを決めている子どもは学年が上がるにつれて減少する傾向があります。

情報モラル教育は、家庭での取組みが大切です。子どもにも要求されるまま、むやみに買い与えるのではなく、使用目的や危険性、ルールやマナーについて、各家庭において話し合い、保護者として心配していることや気をつけてほしいことをしっかりと伝えてください。現在の「スマホ等」は、電話や連絡を取る機能のみならず「インターネット端末」でもあることをふまえ、子どもに持たせる必要性をよく考えていただきますようお願いいたします。



令和 6年 4月
高石市教育委員会

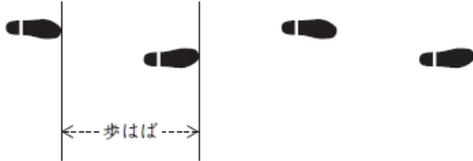
小学校算数

4

あいなさんたちは、時間や速さなどについて考えています。

(1) あいなさんは、家から学校までの歩数を求めます。

家から学校までの道のりは、540 m です。あいなさんの歩はばを 0.6 m とします。



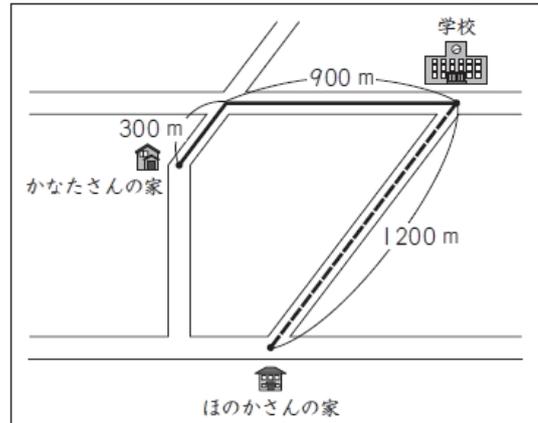
家から学校までの歩数は、 $540 \div 0.6$ の式で求めることができます。
 $540 \div 0.6$ を計算しましょう。

(2) たけるさんは、3分間で180 m 歩きました。同じ速さで歩き続けると、1800 m を歩くのに何分間かかりますか。

答えを書きましょう。

(3) かなたさんとほのかさんは、それぞれの家から学校まで歩いて行きました。

家から学校までの道のり



家から学校までの道のりは、上の図のとおりです。

家から学校まで、かなたさんは20分間、ほのかさんは24分間かかりました。

それぞれの家から学校までの歩く速さを比べると、かなたさんとほのかさんのどちらが速いですか。

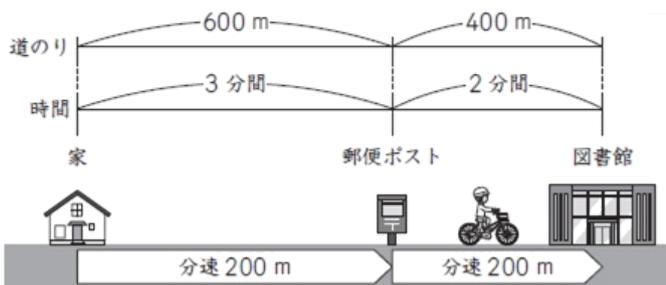
下の 1 と 2 から選んで、その番号を書きましょう。

また、その番号を選んだわけを、言葉や数を使って書きましょう。

1 かなたさん

2 ほのかさん

(4) たけるさんは自転車で、家から郵便ポストの前を通って図書館まで行きました。家から図書館まで、5分間かかりました。



家から郵便ポストまでは、道のりは600 m で、3分間かかり、速さは分速200 m でした。

郵便ポストから図書館までは、道のりは400 m で、2分間かかり、速さは分速200 m でした。

家から図書館までの自転車の速さは、分速何 m ですか。

答えを書きましょう。

解説 領域「変化と関係」に関する問題

4 - (3) 道のりが等しい場合の速さについて、時間を基に判断し、その理由を言葉や数を用いて記述できるかが問われる問題です。異種の二つの量の割合として捉えられる数量の関係に着目し、目的に応じて大きさを比べたり表現したりする方法を考察し、それらを日常生活に生かすことに課題があります。

藤田さん 私は、この前、インターネットで和菓子作りの本を探して購入しました。そのあと、インターネットを利用するたびに、和菓子作りに関する本が表示されるようになって、次に読みたい本もすぐに見付かりました。

今井さん たくさんの本がある中で、自分の好みに合った本を選んで示してくれるのは、便利ですね。でも、他の本の情報に触れにくくなっているとは感じませんでしたか。

藤田さん そうですね。言われてみれば、和菓子作りに関する本がたくさん表示されていたので、最近、それ以外の本の情報にあまり触れていなかった気がします。(図)のこのあたりにいるような感覚ですね。今井さんは、ふだんどうやって本を選んでいるのですか。

今井さん 私は、図書館や書店で本を選んで、読みたい本を見付けるのには時間がかかりますが、本棚を眺めていると、思いがけない本との出会いがあって興味が広がると感じています。

藤田さん 図書館や書店でいろいろな本棚を眺めながら本を選ぶと、時間はかかっても、情報が偏るような状態にはならないでしょうね。

山岡さん そういえば、インターネットでも様々な人がおすすめの本を紹介しているウェブページがありますよ。そこで紹介されている本は、本を探している側の好みによって選ばれているわけではないので、フィルターバブル現象の影響を受けにくいのではないのでしょうか。

今井さん そのような本の選び方は、学校図書館で、おすすめの本のコーナーから本を選ぶことに似ていますね。おすすめの本には、その本をすすめる人の好みや考えが反映されているので、自分とは異なる価値観に触れることもできそうですね。

山岡さん フィルターバブル現象のことを意識すると、本の選び方についても改めて考えてみる必要があると感じました。皆さんは、これからどのように本を選ぶと思いますか。

(図) **フィルターバブル現象**
自分の好む情報「だけ」に囲まれ、多様な意見から隔離されやすくなる現象。

(解説)
インターネットで検索したり閲覧したりした履歴が、使用した通信機器などに記憶され、解析されることで、その利用者の好む情報が優先的に表示されるようになる。一方で、好まないと判断された情報は、はじかれてしまう。このような、情報の偏りが生じたり多様な意見に触れにくくなったりする状態のことを「フィルターバブル現象」という。
例えば、野球についての検索を多くしていると、次第に野球に関する情報が優先的に表示されるようになる。

山岡さん 皆さんは、【フィルターバブル現象の資料】にあるような経験がありますか。

今井さん 私の兄は、時々、インターネットで検索して本を買っているのですが、興味している将棋に関する本の表示が多くなったと言っていました。これは、フィルターバブル現象が起きているということでしょうか。

山岡さん (解説)の例と同じような状態ですね。インターネットを利用して本を選ぶと、フィルターバブル現象の影響を受ける可能性があります。では、話題を「フィルターバブル現象と本の選び方」にして話し合ってみませんか。

今井さん 身近なテーマでよいと思います。私は、兄のようにインターネットで本を買うことはないのですが、皆さんはどうですか。

1 山岡さんたちは、国語の時間に、「フィルターバブル現象の資料」をもちに、グループで話題を決めて話し合っています。次の「フィルターバブル現象の資料」と「話し合いの一部」を読んで、あとの問いに答えなさい。

【話し合いの一部】

※ 左の枠は、下書きに使ってもかまいません。解答は必ず解答用紙に書きなさい。

四 【話し合いの一部】の山岡さんの最後の発言を受けて、あなたならどのような考えを述べますか。次の条件1と条件2にしたがって、実際に話すように書きなさい。

なお、読み返して文章を直したいときは、二本線で消したり行間に書き加えたりしてもかまいません。

条件1 フィルターバブル現象の特徴について取り上げながら、これからどのように本を選びたいかを具体的に書くこと。

条件2 【話し合いの一部】の誰の発言と結び付けて自分の考えをまとめるように書くこと。

(図) **フィルターバブル現象**
自分の好む情報「だけ」に囲まれ、多様な意見から隔離されやすくなる現象。

二 【話し合いの一部】の——線部分の「○」のこのあたりにいるような感覚ですね。」について、(図)の中で、藤田さんが指し示していると考えられる部分を○で囲みなさい。

※ 左の枠は、下書きに使ってもかまいません。解答は必ず解答用紙に書きなさい。

解説 領域「話すこと・聞くこと」に関する問題

1-二 資料を用いて、自分の考えがわかりやすく伝わるように話すことができるかどうかを問われている問題です。自分の考えがわかりやすく伝わるように、自分の考えをまとめることに課題があります。

1-四 話し合いの話題や展開を捉えながら、他者の発言と結び付けて自分の考えをまとめることができるかどうかを問われている問題です。話し合いの話題や発言を踏まえ自分の考えを書くことに課題があります。

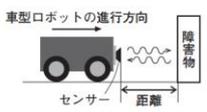
- 5 2枚の10円硬貨を同時に投げるとき、2枚とも裏が出る確率を求めなさい。ただし、硬貨の表と裏の出方は、同様に確からしいものとします。

- 7 海斗さんと咲希さんは、安全性を高めるためにセンサーで障害物を感知して止まる自動車があることを知り、興味をもちました。そこで、車型ロボット用のプログラムによって走らせることのできる車型ロボットを使って実験をすることにしました。

この設定で、海斗さんが車型ロボットを障害物に向けて走らせてみたところ、次の図1のように、設定した10 cmの位置よりも進んで止まりました。

車型ロボットの説明

○ 障害物からの距離を測定できるセンサーがついている。



○ プログラムの [7]、[4] に値を入れることによって、車型ロボットの速さと、障害物からの距離を設定し、車型ロボットの動きを止めることができる。

○ [7] は、速さとして最も遅い段階1から最も速い段階5まで設定できる。

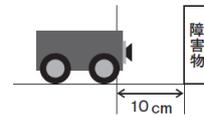
○ [4] は、距離として3 cm から500 cm まで設定できる。

プログラム

```

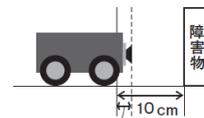
    段階 [7] の速さ → 障害物からの距離が [4] cm より小さいことを感知する → 止まる
    で前に進む
  
```

図1



そのようすを見て、海斗さんは、車型ロボットが10 cmの位置からどれくらい進んで止まるか気になりました。そこで、次の図2のように、10 cmの位置から進んだ距離を調べる実験を20回行い、その結果を下のように小さい順に並べました。

図2



10 cmの位置から進んだ距離

10 cmの位置から進んだ距離について調べた結果

1.5	1.9	1.9	1.9	1.9	1.9	1.9	1.9	2.0	2.0
2.0	2.0	2.1	2.1	2.2	2.2	2.2	2.2	2.4	2.4

(単位: cm)

海斗さんは、まず、プログラムの [7] に1を、[4] に10を入れて、次のように設定しました。

海斗さんが設定したプログラム

```

    段階 [1] の速さ → 障害物からの距離が [10] cm より小さいことを感知する → 止まる
    で前に進む
  
```

- (3) 二人は、次のプログラムを見て、話し合っています。

プログラム

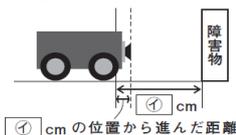
```

    段階 [7] の速さ → 障害物からの距離が [4] cm より小さいことを感知する → 止まる
    で前に進む
  
```

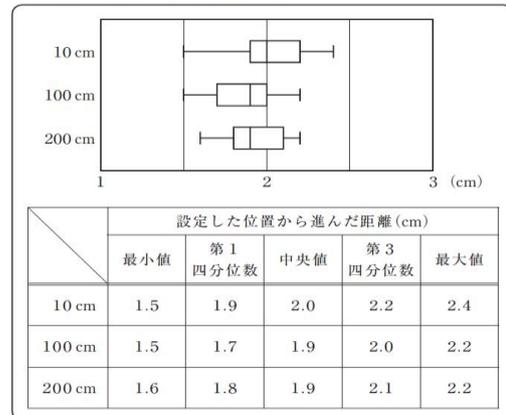
海斗さん「速さを段階1にして、距離を変えると、設定した位置から進んだ距離はどうなるかな。」
 咲希さん「設定した位置から進んだ距離の分布の傾向が変わるかもしれないよ。」
 海斗さん「距離 [4] の値を10より大きくしてみよう。」

海斗さんは、速さの段階を1に設定して、障害物からの距離 [4] cm の設定を変えたとき、次の図3の [4] cmの位置から進んだ距離がどうなるか調べることにしました。そこで、[4] の設定をすでに調べた10 cmのほか、新たに100 cm、200 cmにして、それぞれ20回ずつ調べてデータを集めました。そして、データの分布の傾向を比較するために、箱ひげ図に表しました。

図3



設定した位置から進んだ距離の分布



段階1の速さで、障害物からの距離を10 cm、100 cm、200 cmと長くしていくと、四分位範囲はどうなりますか。設定した位置から進んだ距離の分布から読み取り、正しいものを下のアからオまでの中から1つ選びなさい。

- ア 四分位範囲はだんだん大きくなる。
- イ 四分位範囲はだんだん小さくなる。
- ウ 四分位範囲は大きくなって、小さくなる。
- エ 四分位範囲は小さくなって、大きくなる。
- オ 四分位範囲は変わらない。

解説 領域「データの活用」に関する問題

- 5 簡単な場合の確立を求めることができるかどうかをみる問題です。確立を求めることに課題があります。
- 7 (3) 複数の集団のデータの分布から、四分位範囲を比較することができるかどうかをみる問題です。情報の正確な読み取りに課題があります。